

特集テーマ：「国際成人力調査からの知見」について

2013年10月に、OECD（経済協力開発機構）「国際成人力調査」（PIAAC〈ピアック〉：Programme for the International Assessment of Adult Competencies）の国際調査結果が公表された。PIAACは2011年から2012年にかけて、OECD加盟22か国・地域を含む24か国・地域が参加して行われた。日本では国立教育政策研究所が実施責任機関となり、文部科学省と密接に連携しながら調査の準備、実施及び分析に当たってきた。

PIAACは成人のスキルを測定する初めての大規模な国際調査である。調査は「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」の3分野のスキル習熟度を直接測定するとともに、背景調査の結果と組み合わせることで、学校教育や職業訓練等が成人のスキル習熟度とどの程度関係しているかや、スキル習熟度が様々な経済的・社会的アウトカムとどの程度関係しているか等を検証し、政策立案に活用することを目指している。

PIAACの調査の枠組みや調査結果の詳細については、「成人スキルの国際比較－OECD国際成人力調査（PIAAC）報告書」（国立教育政策研究所編、明石書店、2013年）が既に刊行されている。

本特集は、国立教育政策研究所及びOECDにおいて、実際にPIAACの実施や調査結果報告書の作成に当たってきた関係者が、PIAACの調査結果に基づいて、それぞれの視点から分析や考察を行ったものである。掲載論文の内容は、各執筆者の見解を反映したものであり、国立教育政策研究所としての統一見解を示すものではないこと、また論文中の用語等についても必ずしも統一を図っていない点をお断りしておく。

この特集が、日本における教育政策研究を発展させる上で、多くの示唆を与えてくれることを期待している。

なお国立教育政策研究所では、2014年1月に「PIAAC調査結果の分析に関する研究会」を設置し、所内外の研究者や文部科学省の関係者の参加を得て、PIAACの調査結果についての更に詳細な分析を行うこととしている。その分析結果については、改めて上梓（じょうし）することとしたい。

（小桐間 徳）